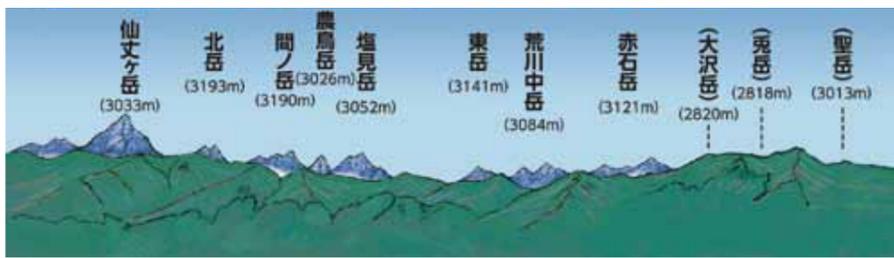


麻績の里

座光寺を歩く



南アルプスを望む (パノラマファーム大門より)

飯田市座光寺地区は奈良時代「麻績郷」と呼ばれ、豊かな自然や湧き水に恵まれていたことから、古くより人々の営みがありました。地区内には国史跡・恒川官衙遺跡をはじめ、数多くの歴史文化財があります。また段丘地形である座光寺は、上段から下段にかけて変化に富んだ自然にあふれています。

自然探訪

◆ビューポイント

- 1 南アルプスと伊那谷の絶景
- 2 春は百花繚乱・花の谷
- 3 眼下に座光寺地区を一望
- 4 座光寺富士を背景に田園が広がる

◆銘桜をめぐる

- 1 山の神の桜
- 2 馬捨原の桜
- 3 座光寺パーキング付近の桜
- 4 原宮崎会所の桜
- 5 竹内家の桜
- 6 大堤の桜
- 7 大堤児童公園の桜
- 8 直売所・麻績の里のしだれ桜
- 9 観音井堤の桜
- 10 北本城土塁桜
- 11 座光寺小学校のしだれ桜
- 12 馬鳴菩薩(めみょうぼさつ)横の桜
- 13 上野のしだれ桜
- 14 湯沢家氏神様の桜
- 15 麻績の里 石塚桜
- 16 麻績の里 舞台桜
- 17 社宮司近くの桜
- 18 元善光寺の桜
- 19 いいちこ桜
- 20 高岡神社の桜
- 21 元善光寺駅裏の桜
- 22 松乃本店「しだれ桜・四季桜」
- 23 ZAPP21付近の桜
- 24 最見塚(さいみづか)の桜
- 25 山王権現社の桜
- 26 玄蕃稲荷様の桜
- 27 石川除の桜
- 28 水見台の桜
- 29 水神様の桜

歴史探訪

◆遺跡

- 1 恒川官衙遺跡群(国史跡)
- 2 恒川清水/ごんがわしみず

◆古墳

- 1 高岡第1号古墳(国史跡)
- 2 畦地1号古墳
- 3 平地2号古墳
- 4 石行(いしぎょう)2号古墳
- 5 新井原12号古墳
- 6 石塚1・2号古墳
- 7 最見塚(さいみづか)古墳
- 8 北本城古墳

◆城・館跡

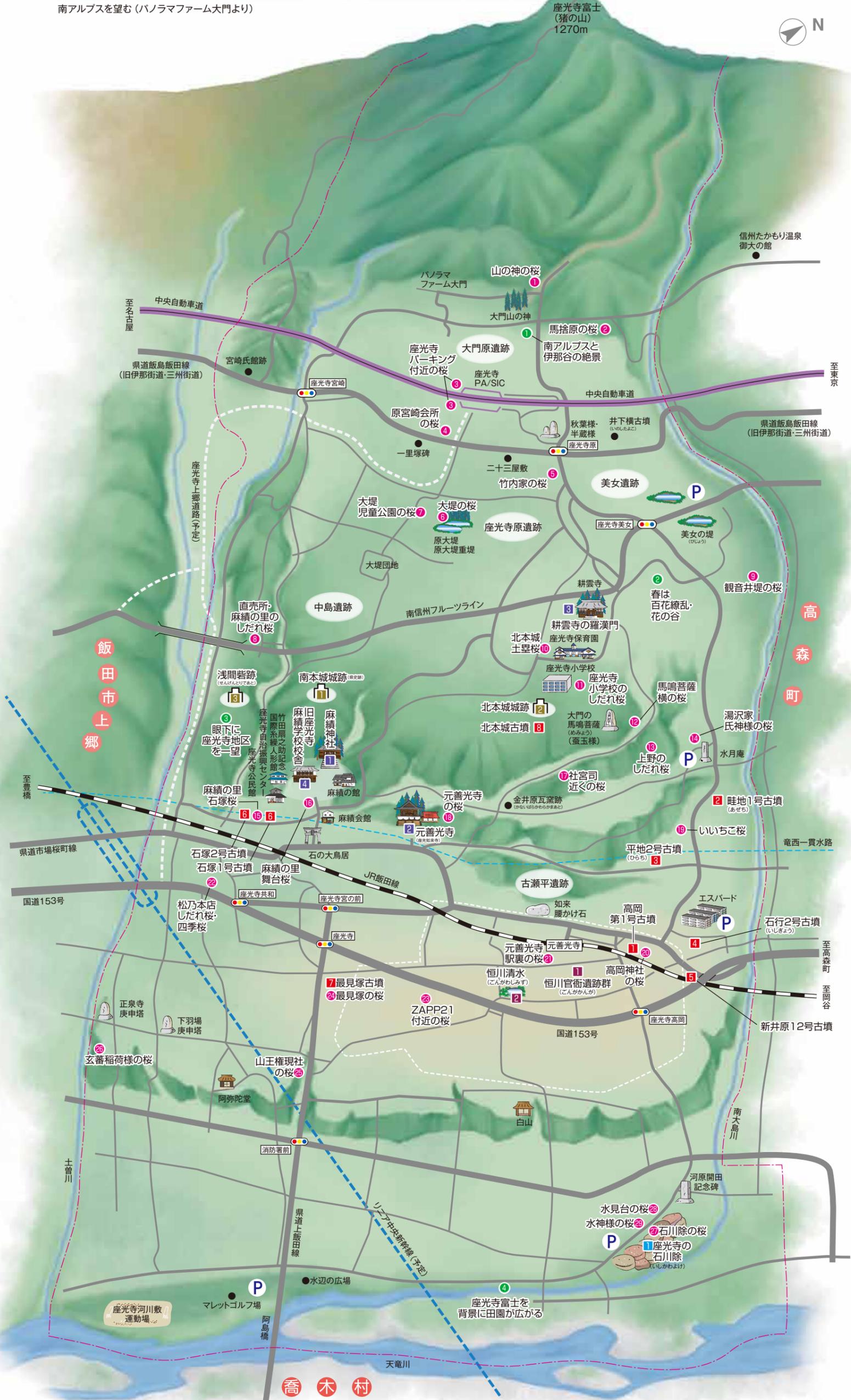
- 1 南本城城跡(県史跡)
- 2 北本城城跡
- 3 浅間(せんげん)砦跡

◆神社・寺院・建造物

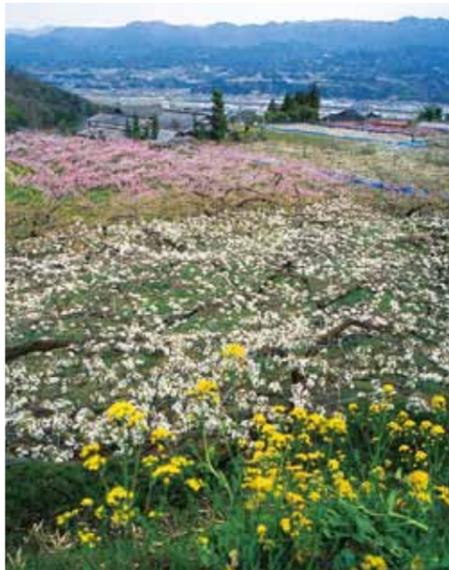
- 1 麻績神社
- 2 元善光寺(座光如来寺)
- 3 耕雲寺の羅漢門
- 4 旧座光寺麻績学校校舎(長野県史)

◆石造文化財

- 1 座光寺の石川除(県史跡)



自然探訪



桃、梨、りんご、菜の花の競演(中段から)

1 ビューポイント

座光寺富士(猪の山/1270m)からならかな丘陵が延びる飯田市座光寺。上段からは南アルプスが望め、中段は果樹の花が美しく咲き競い、そして下段は水田地帯が広がっています。美しい段丘の農村風景を歩き歩いてください。



南アルプスを望む(上段から)



座光寺富士を背景に水田地帯が広がる(下段から)

2 銘桜をめぐる

座光寺の花は「しだれ桜」。時季になると地区のいたるところで名桜の花の競演が楽しめます。



麻績の里 舞台桜
(飯田市天然記念物)
南信州を代表する名桜のひとつ。エドヒガンの突然変異種で、花弁数が5~10枚の花がランダムに咲く、ここにしかないしだれ桜



麻績の里
石塚桜
石塚1号古墳
の上に咲くしだれ桜。古墳を守るように、天に向かって枝を広げている



最見塚の桜 塚の頂に植栽されたエドヒガンの古木で、比較的早い時季に咲く

畦地1号古墳(飯田市史跡)
東西15m、南北19.8mの円墳で、6世紀前半の築造です。石室は朝鮮半島に系譜をもち、「銀製長鎖式垂鎖付耳飾」は日本では珍しい出土品です。



畦地1号古墳

石塚1号古墳
径21.8m、横穴式石室をもつ円墳で、6世紀後半に造られました。石室の構造は当地方の典型ですが、その大きさは座光寺では最大です。



石塚1号古墳

3 城・館跡

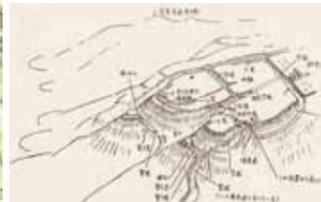
上野城城跡(南本城城跡/県史跡)

伊那谷最大級の城跡で、北本城は居館的平山城、南本城は防衛第一に造られた山城です。南本城は複雑な縄張りがほとんど完全に残されており、県史跡に指定されています。また、沢を挟んで南本城と隣接している「浅間砦跡」も

上野城に関連する遺跡と考えられています。



南本城鳥瞰図(宮坂武男氏作図)



北本城鳥瞰図(藤本正行氏作図)



4 神社・寺院・建造物

麻績神社

天正年間(1573)以前の開創といわれ、八幡社を中心に現在14社が合祀されています。参道入口の石の大鳥居、参道途中の大石垣なども必見です。



麻績神社(八幡社・諏訪社)

耕雲寺の羅漢門(飯田市有形文化財)

飯田下伊那では珍しい竜宮門という形式の山門です。寛政7年(1795)に棟上げしており、二階には羅漢像など仏像が納められています。



耕雲寺羅漢門

歴史探訪

1 遺跡

恒川官衙遺跡群(国史跡)
(ごんがわがわいせきぐん)

律令時代(奈良・平安時代)の伊那郡の役所。この地が国づくりに重要な役割を果たしたことがわかる史跡で、役所に関連する施設が見つかっています。

恒川官衙遺跡は現在も発掘調査が進む



恒川清水(ごんがわしみず)。祭祀などに使われた

2 古墳

高岡第1号古墳(国史跡)

飯田古墳群の中で一番北に位置する前方後円墳で、6世紀前半の築造。二重の周溝が確認され、周溝を含む全長は125mと推定されます。石室は後円部中腹にあり、その構造は朝鮮半島の古墳と似ています。石室全面を朱で彩色したものと考えられ、一部に朱の痕が残っています。



高岡第1号古墳



石室内部

元善光寺
(座光如来寺)

飛鳥時代に本多善光が、後に善光寺の本尊となる阿彌陀三尊を、難波(大阪市)から持ち帰った場所といわれています。古くは如来寺と呼ばれていました。



元善光寺

3 石造文化財

座光寺の石川除(県史跡)
(いしかわよけ)

南信州で唯一現存する近世の堤防で、延長は215.5mあります。文政11年(1828)に着工し、天保2年(1831)に竣工しました。



座光寺の石川除